

あべともこニュース

命の安全、安心こそ最優先に。

◆体育館にエアコン設置を

猛暑の夏休み。子どもたちはクラブ活動で体育館のなか汗だくです。最近、「体育館にエアコンを設置して欲しい。熱中症が心配」という相談を受けました。

文科省によると、冷房設備の設置率は、公立小中学校の普通教室で95.7%、神奈川県は100%。ところが体育館の同設置率は全国平均で11.9%。既存の体育館は断熱性が低く冷房設備を設置しても効果が得られないのが課題です。文科省には、体育館の建替えや全面改修工事による断熱性能の確保と冷房設備をセットにした支援制度がありますが大規模工事となるためハードルが高い。

とはいえ、災害発生時に多くの自治体が避難所に指定するのは体育館です。近年の豪雨でも学校の校舎や体育館が避難所として活用されています。子どもたちのためにも災害時の備えにもエアコンの設置は急務です。計画的に実現していきましよう。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県 12 区（藤沢市・寒川町）
当選 8 回、東京大学医学部卒業、
小児科医、あべともこ子ども
クリニック（湘南台）理事長
現在、厚生労働委員会
原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ
公式Twitter
@abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko



あべともこ
公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索

◆PFAS対策、予算増と情報共有を
7月25日、環境省「PFASに対する総合戦略検討専門家会議」が開催。2月から数えて4回目の開催。ようやく血液検査の拡充や水だけでなく、大気や土壌の調査にも着手する方針が示されましたが、いまだに課題は残ります。30日には、「PFAS汚染の対策と現状について」報告会が開催。専門家は、「対策の前進は評価するが、検査には、お金も技術もかかる。国は、その点を見越した対策を講じてほしい」と。PFASをめぐっては、「科学的知見」が十分でないことを理由に、対策が先延ばしされてきました。健康被害が起きているからでは遅いです。汚染源を食い止めると共に、健康調査は急務です。

有機フッ素化合物 (PFAS)

- 約4700種類
- 水や油をはじく性質
- 自然分解しにくい

主な用途

- フライパン
- 食品包装
- レインコートなど

健康被害の恐れ

- 一部を製造、使用禁止
- 飲み水は1リットル当たり50ナノグラムを暫定目標値に

発がん性の疑いなど

図；時事通信、「PFAS」対策で今夏に指針＝健康被害懸念、発がん性指摘も一水質管理の徹底要請へ・環境省」2023/6/10

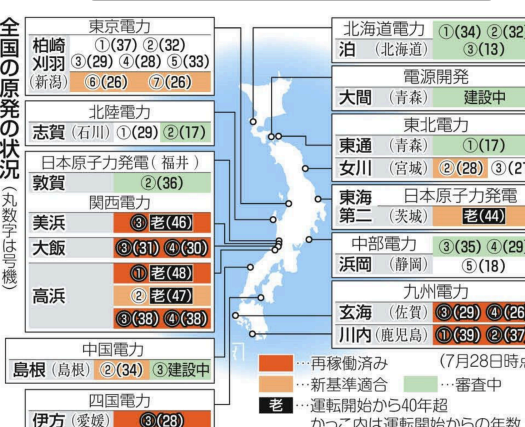
◆老朽原発の安全性は確保できるか？

7月28日、関西電力高浜原子力発電所一号機が12年ぶりに再稼働。翌29日朝には、「臨界」し、8月2日には発電と送電が始めました。1974年に運転を開始、廃炉になっていない中では国内で最も古い原発で、運転開始から48年が経過しようとしています。先日の「GX脱炭素電源法」の成立で、今後同様の「老朽」原発の60年超稼働が見込まれますが、安全性には大きな疑問があります。

原発の適格性は、引き続き原子力規制庁が担当しますが、「長期施設管理計画」という点検内容の詳細はこれから詰められていくとのこと。運転“推進”ありきの法案審議の結果で、安全性は蚊帳の外…。

規制委員会の独立性や関係官庁の癒着・独断専行が明らかになった原子力政策はどこへ向かうのか。国民にとつての安心・安全は担保できません。

あべともこ後援会入会及び、ボランティアスタッフ募集



出典；東京新聞、「高浜原発1号機は最初の「60年超」になるのか 関西電力、再稼働原発はすべて30年超」2023/7/28